

参 考 資 料

- 【別紙 1】 長崎・五島はどんなところか
- 【別紙 2】 五島のマイクログリッド網の全体イメージ
- 【別紙 3】 離島における人口減少と低い有効求人倍率
- 【別紙 4】 離島の過疎地域における交通・移動の課題
- 【別紙 5】 長崎の教会群とキリスト教関連遺産
- 【別紙 6】 長崎 EV&ITS プロジェクト
- 【別紙 7】 五島地域における急速充電器・ITS スポットの整備状況
- 【別紙 8】 シームレスな地域医療連携の実現に向けた実証事業
- 【別紙 9】 長崎 EV&ITS コンソーシアム

長崎・五島はどんなところか

○「長崎EV・PHVタウン構想」

平成21年度、**長崎県は、国から、EV・PHVタウンの一つに選定。**

○離島の活性化

県面積の4割を占める離島における人口減少問題の解決には、**産業・雇用創出が必要。**

○世界遺産登録への取組み

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」は平成19年1月に暫定リスト登録済。
本登録に向け環境先進地をアピール。

長崎県位置図

・ 長崎市も位置するいわゆる本土地区と、五島列島（五島市・新上五島町）、舌岐及び対馬の三大離島からなる。

・ 人口： 1,478,632人

・ 世帯数： 553,620世帯

（※平成17年国勢調査による）

・ 面積： 4,105 km²

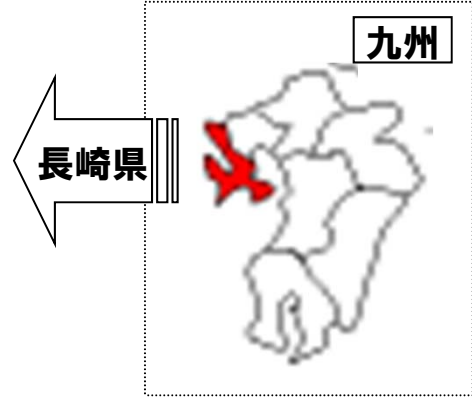
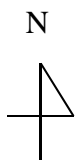
※ 海岸線延長は、4,196 kmで、全国の12%を占めており、北方領土を除くと全国1位。



五島と本土を結ぶ全長53 kmの日本一長い電力海底ケーブル（九州電力）

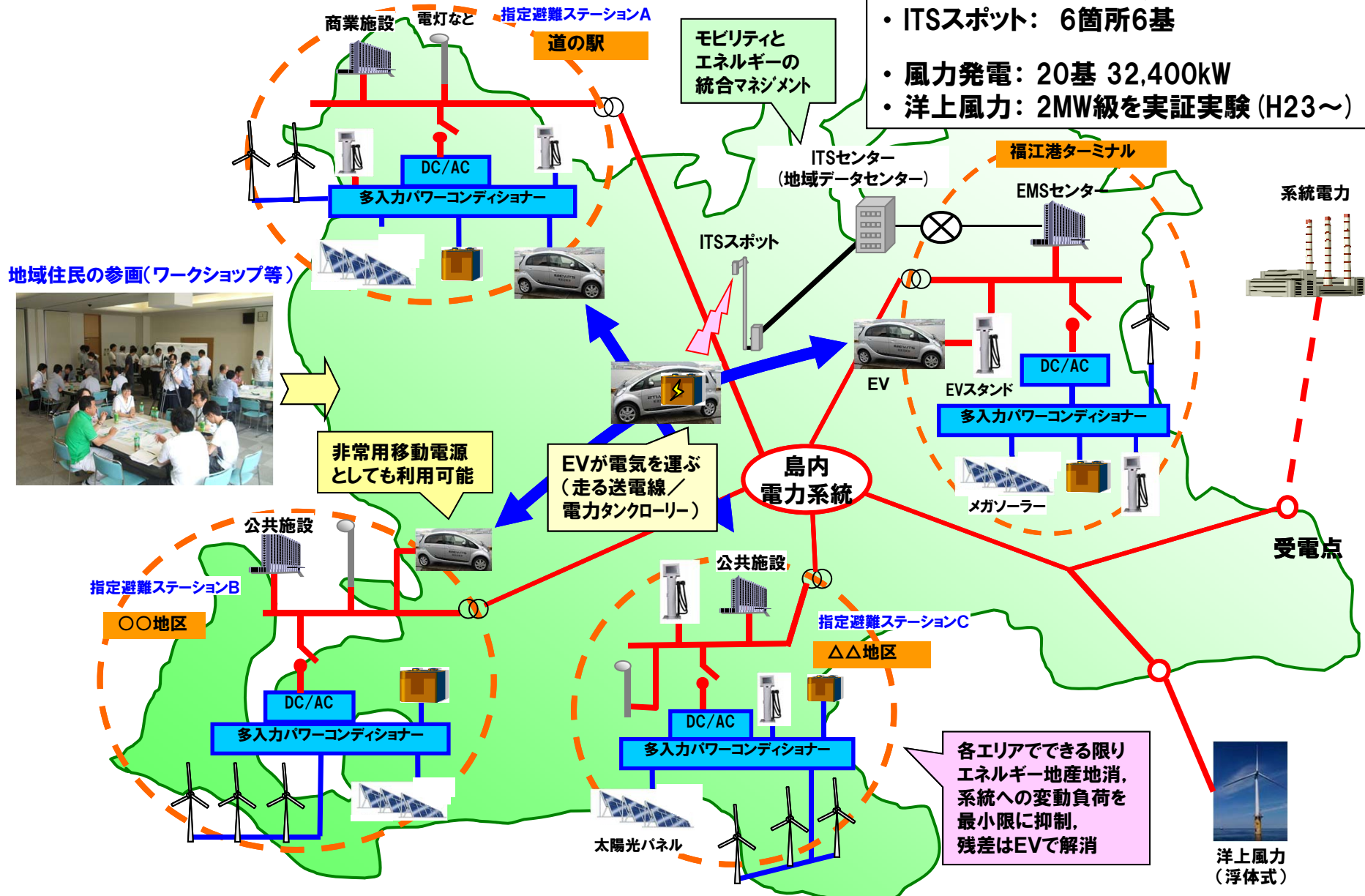
五島列島

人口： 69,804人
世帯数： 29,605世帯
（※平成17年国勢調査による）
面積： 635 km²



2. 五島のマイクログリッド網の全体イメージ

- EV・PHV: 140台 (i-MiEV, LEAF, プリウスPHV)
- 急速充電器: 13箇所27基
- 普通充電器: 22施設29基(共用分)
- ITSスポット: 6箇所6基
- 風力発電: 20基 32,400kW
- 洋上風力: 2MW級を実証実験 (H23~)



モビリティとエネルギーの統合マネジメント

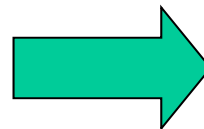
各エリアでできる限りエネルギー地産地消, 系統への変動負荷を最小限に抑制, 残差はEVで解消



離島における人口減少と低い有効求人倍率

○ 長崎県の人口減少（S40年→H17年の40年間）

・164.1万人 → 147.9万人に、約16.3万人減少 ※国勢調査人口



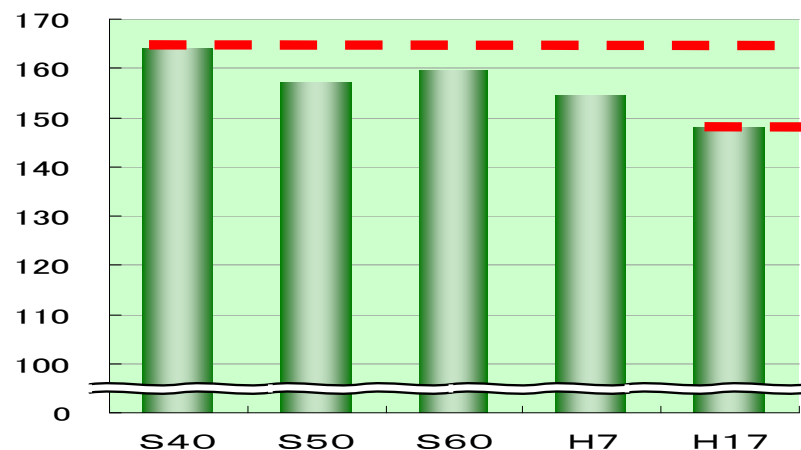
雇用の確保が必要

○ 特に、離島の人口減少が著しい。（同40年間）

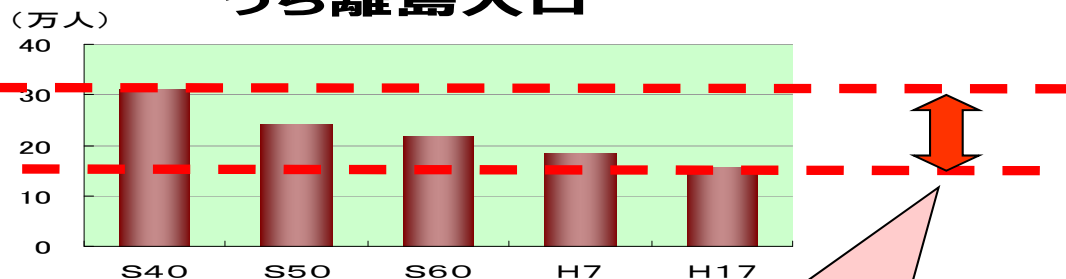
・31.2万人 → 15.6万人に、約15.7万人減少

・例えば、離島地区の新規高卒者（H22年度）1,304人のうち、1,155人（88.6%）が島外へ。

（万人） 長崎県の人口（全体）



（万人） うち離島人口



離島の人口減少数は
県全体の人口減少数に
ほぼ等しい

○ 本県の有効求人倍率（H23年4月分）上段（ ）はH22年度

全国	県全体				
	離島	五島	壱岐	対馬	
(0.48)	(0.37)	(0.41)	(0.36)	(0.29)	
0.61	0.41	0.39	0.52	0.35	

全国・県は季節調整値、本土・離島・五島・壱岐・対馬は実数（資料：長崎労働局）

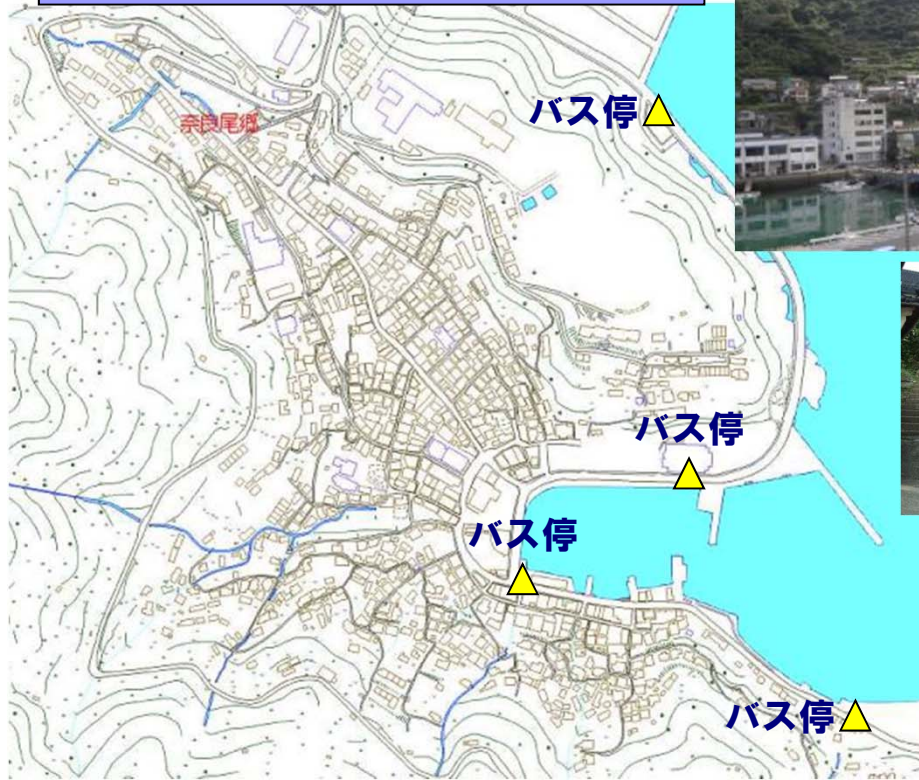


課題解決には、観光をはじめ
産業と雇用の創出が必要
← 交流人口の拡大が必要

上記のとおり、全国に比べて、有効求人倍率が低い

離島の過疎地域における交通・移動の課題

新上五島町奈良尾地区



<奈良尾地区>

	S 5 0	H 1 7	増減率
人口(人)	2,880	1,124	-61%
うち65才以上(人)	262	435	66%
高齢化率(%)	9.1%	38.7%	29.6%

	H 7	H 2 2	増減率
バス本数(本)	82	68	-17%

- 公共交通であるバスの本数減少だけでなく、高齢者にとっては、自宅からバス通りまでの細い坂道の上り下りが大きな負担となっている。
- 高齢者が移動できる環境づくりは、高齢者の健康維持、元気な高齢者の生産、消費、地域コミュニティ活動による地域活性化につながる。

世界遺産登録への取組

○長崎県では「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録を目指しており、既にこれらは、平成19年1月、ユネスコの暫定リストに登録済み。

- ◆長崎は日本初のキリシタン大名大村純忠等が現れるなどキリスト教が栄えた地。しかし、秀吉等のキリスト教禁教で、多くの信者が離島、半島等に逃れ、隠れながら信仰を継続。明治維新後再び信仰が認められたことから、離島、半島を中心に各地で一斉に教会が建設された。
- ◆長崎のキリスト教関連遺産は、このようなキリスト教の布教、弾圧、潜伏、復活を象徴する資産として世界遺産登録を目指しているもの。

○五島列島は、キリスト教関連遺産の多くが点在しており、世界遺産登録は離島振興に直結するもの。

○しかし、世界遺産登録のためには、景観や環境保全が重要視されることから、世界に対し、五島列島が環境先進地であることをアピールする必要がある。

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」構成資産候補 29件(国宝1・国重文9・国史跡3・県指定6・未指定10)

●教会群(13件) 赤字:五島地区所在

名称	指定区分・所在地	名称	指定区分・所在地
大浦天主堂	国宝:長崎市	頭ヶ島天主堂	国重文:新上五島町
大野教会堂	国重文:長崎市	大曾教会	県有形:新上五島町
黒島天主堂	国重文:佐世保市	出津教会	県有形:長崎市
田平天主堂	国重文:平戸市	宝亀教会	県有形:平戸市
旧五輪教会堂	国重文:五島市	堂崎教会	県有形:五島市
江上天主堂	国重文:五島市	旧野首教会	県有形:小値賀町
青砂ヶ浦天主堂	国重文:新上五島町		



頭ヶ島天主堂



大曾教会



旧五輪教会堂



江上天主堂



青砂ヶ浦天主堂



堂崎教会

長崎EV & ITSプロジェクト

○国から選定された「長崎県EV・PHVタウン構想」※の主要プロジェクトとして、世界遺産候補を有する五島地域において、EV(電気自動車)等とITS(Intelligent Transport Systems:高度道路交通システム)が連動した未来型のドライブ観光システムを実現

※ 平成21年3月31日に全国から本県を含む8都府県を選定。平成22年12月6日、新たに全国から10府県が選定された。

目的:①EVと観光ITSの実配備・運用、②地域発で全国に通用するルール化・標準化を行うプロジェクトの遂行、
③環境、観光を軸とした地域振興・産業振興の実現、④エネルギーシステムとEVに係るモデル実証 等
推進体制:慶應義塾大学の川嶋弘尚名誉教授を会長に、学識経験者、自動車メーカー、カーナビ・電機メーカー、
地場企業、業界団体、行政機関・地域等による連携組織「長崎EV & ITSコンソーシアム(長崎エビッツ)」※を立ち上げ、その中にワーキンググループ(WG)※を設置

※ 平成21年10月8日に99団体の参画を得て設立。(H23.9.27現在、196団体)

※ WG1「EV・充電設備関連」、WG2「ITSインフラ関連」、WG3「コンテンツ関連」、WG4「エコアイランド関連」の4つを設置。

☆ プロジェクト概要

◎ 現状(平成22年度末)

- 五島地区のレンタカー等に、EVを117台、PHVを2台導入。
- 急速充電器を8箇所15基、200V充電設備を22箇所29基整備。
- 地元の観光情報をITSスポット対応カーナビを通じて発信。上・下五島に各10のおすすめ観光ルートを設定
- これまでにレンタカーとして、7,057台の利用実績。

◎ 平成23年度

- EVを21台追加導入。
- 急速充電器を6箇所12基整備。
- ITSスポット、観光情報プラットフォームを整備し、観光情報等を配信。

長崎EV & ITS(エビッツ):未来型ドライブ観光のイメージ

ITSで実現する地域主体の観光サービス

※これらのサービスは平成25年度までに完成を目指して検討(開発)中の全体イメージですが、一部は平成23年度から始まる予定です。

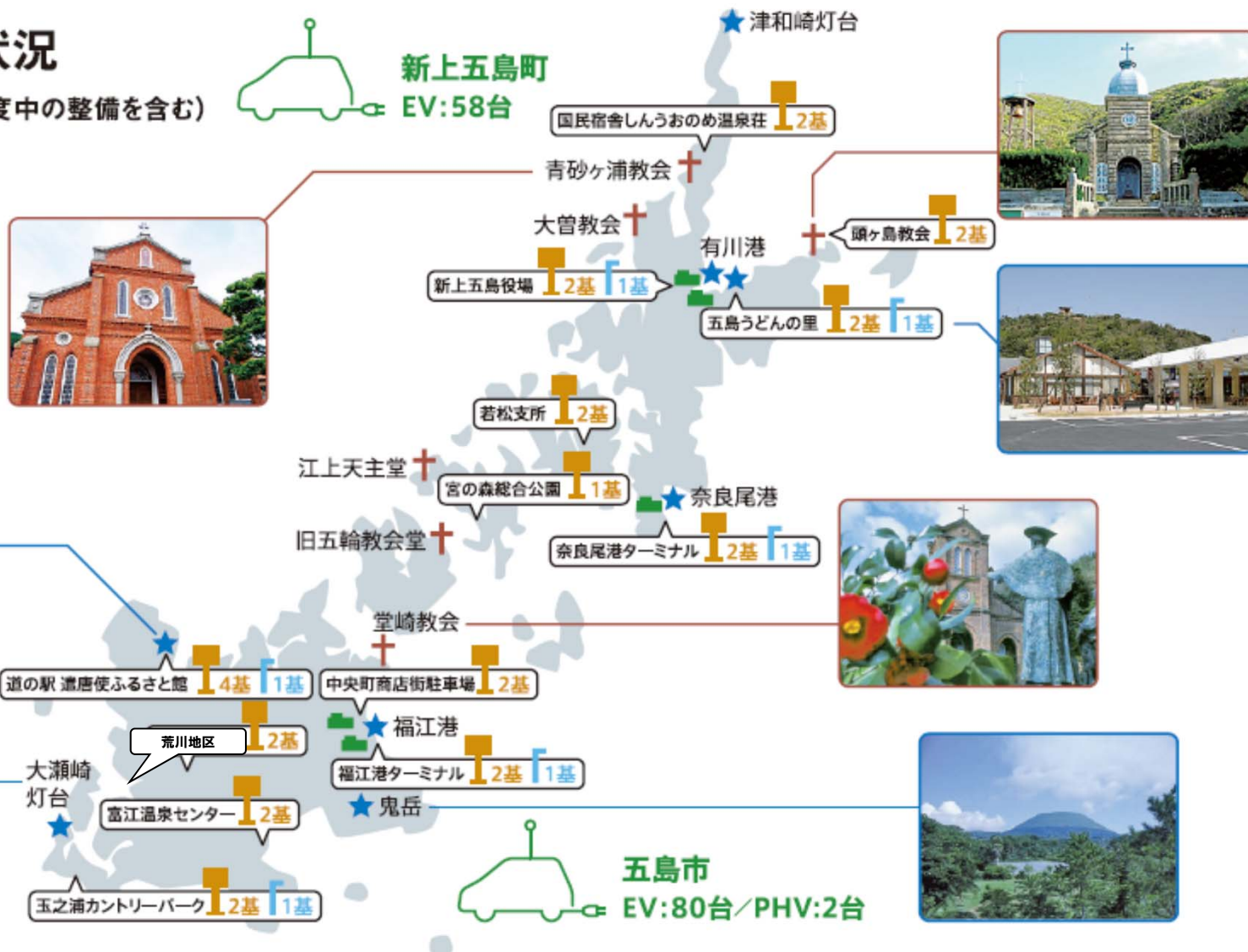


五島地域における整備状況

インフラ整備状況

(五島列島／平成23年度中の整備を含む)

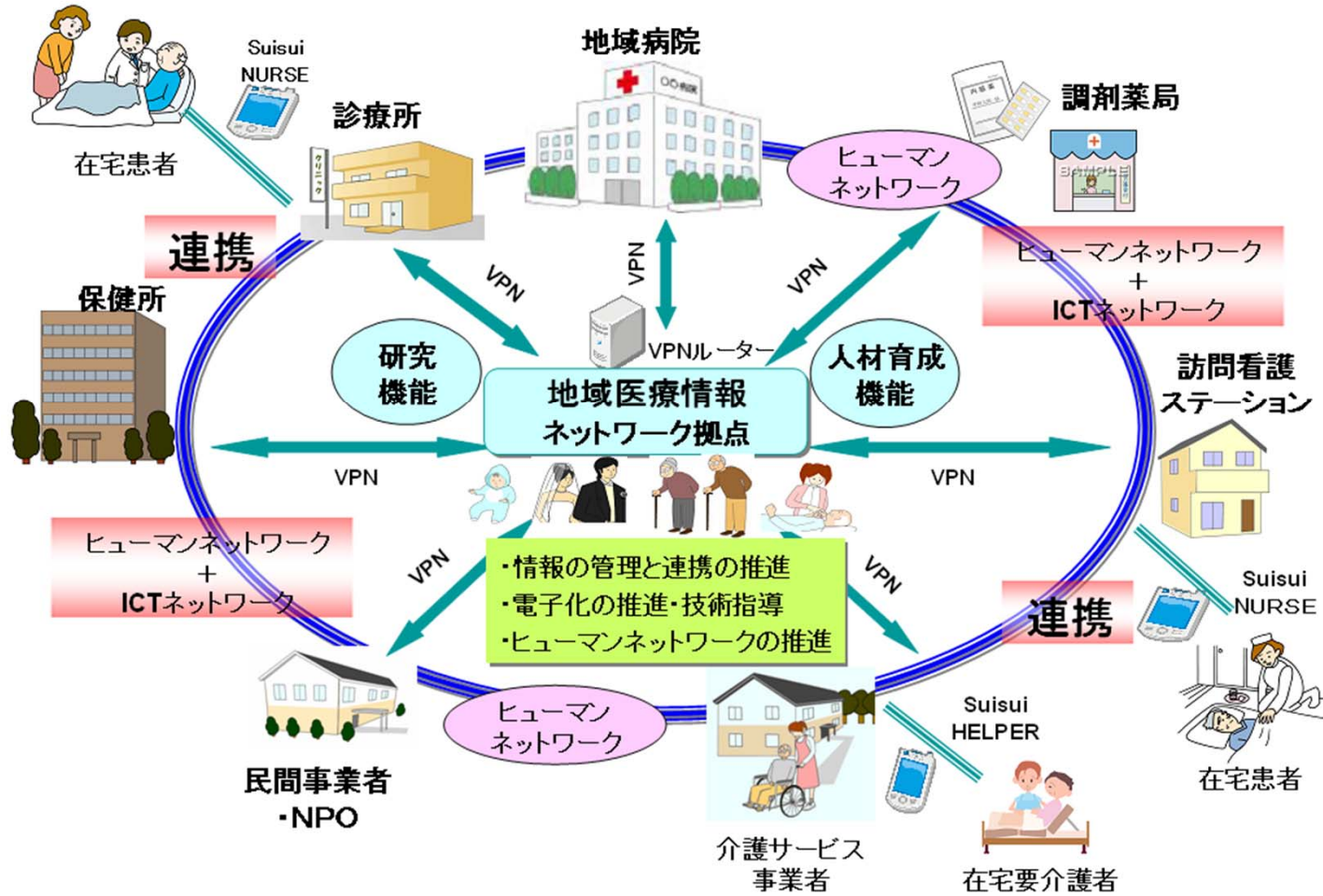
-  急速充電器
-  ITSスポット
-  レンタカー業者
-  観光スポット、港
-  教会 



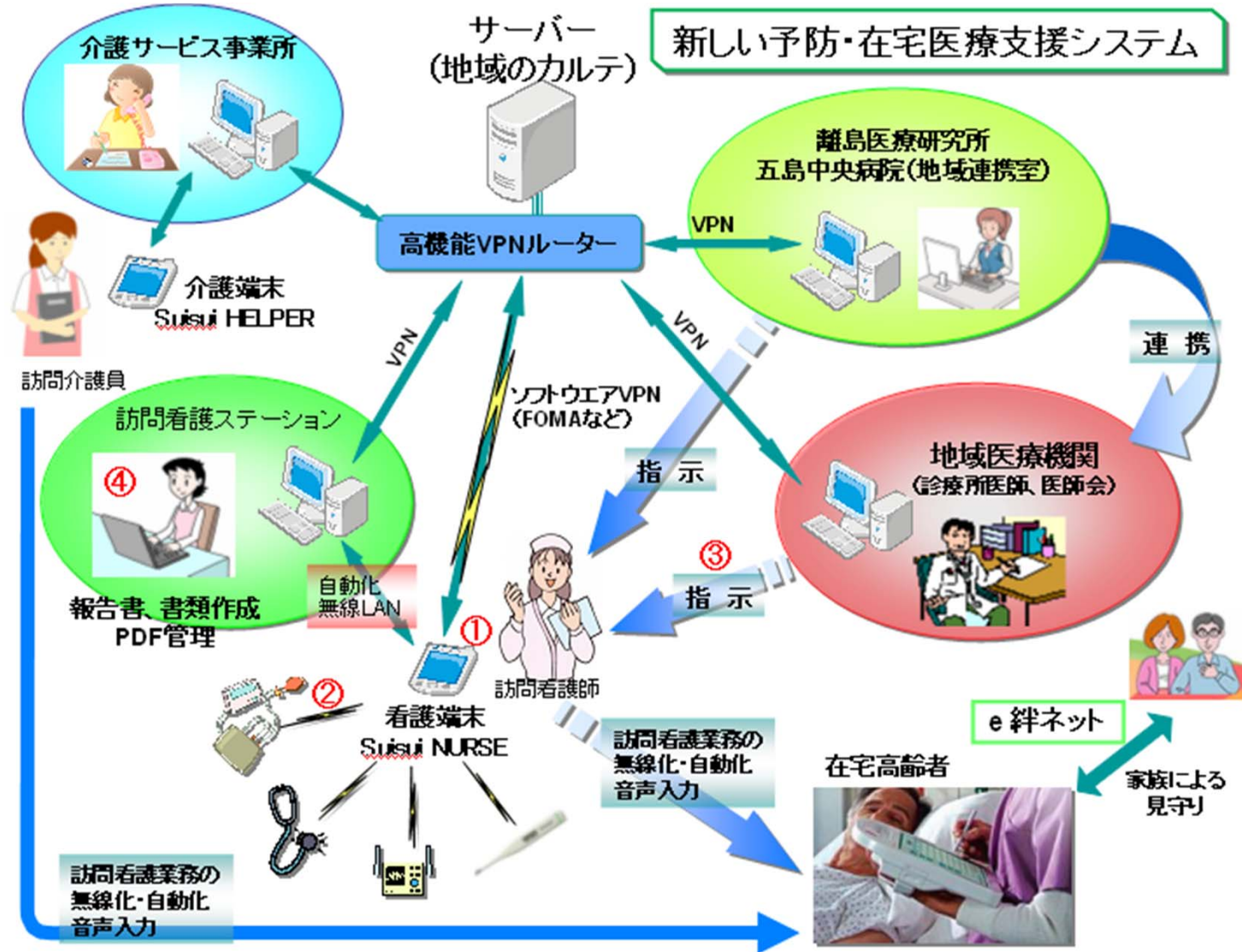
○ 全体概要図

< 目指す姿 >

医療情報の共有化 → 在宅までシームレスな地域連携医療

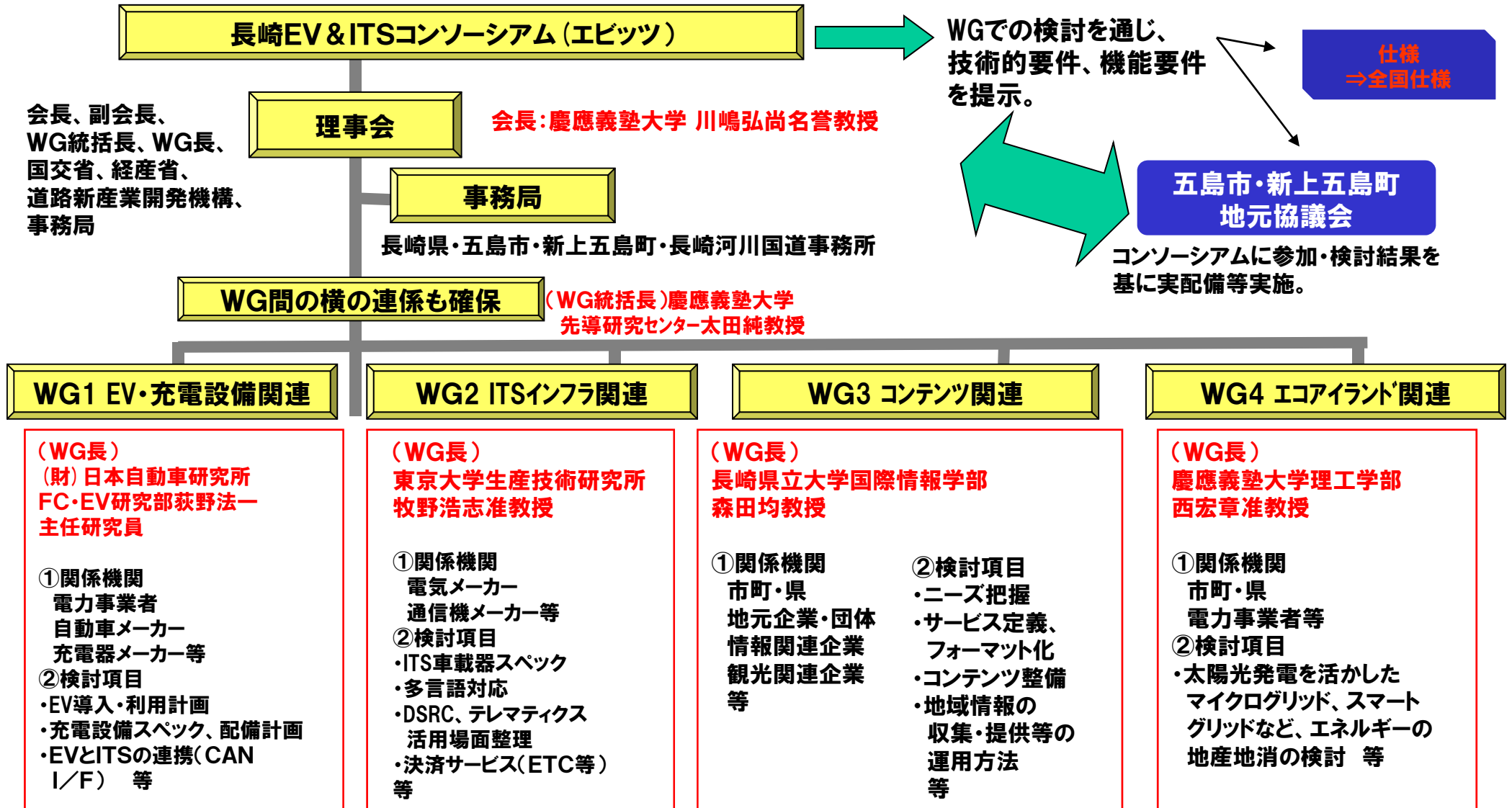


○ 事業の全体構成図



長崎EV & ITSコンソーシアム(長崎エビッツ)の目的と推進体制

目的: <EVと観光ITSの実配備・運用>、<地域発で全国に通用するルール化・標準化を行うプロジェクトの遂行>、
<環境、観光を軸とした地域振興・産業振興の実現>、<エネルギーシステムとEVに係るモデル実証> 等



・各WGの参加メンバーを募集中